

## 第2学年の実践

土居 結緯

【単元名】「もっと知りたい、友だちのしょうかい文を書こう」

【教材名】「友だちのこと、知りたいな」(光村図書2年)

### 1 学級の実態

<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことに意欲をもち、書く量も増えてきた。</li> <li>・6月に行った「かんさつ名人」では、書く事柄に必要な題材を多く集めることができたものの選材する力が不十分である。課題意識が弱い。</li> <li>・身近な経験を文に表すことができるが、決められた題材や観点を示されると書くことに抵抗を感じる児童がいる。</li> </ul>
--

### 2 言語活動

相手意識	目的意識	場面意識 (公/私)	ジャンル
学級 学年の友達	友達のよいところを見つけてクラスのみんなに紹介し、もっと仲良くなる。	公的	紹介文

### 3 学習目標

#### (1) 態度目標

進んで書こうとする態度を身に付けることができる。
--------------------------

#### (2) 価値目標

友達と対話や交流などをしながら、自分の思いを伝えたり、他者の思いを知ったりすることで、友達に目を向けることができる。
--

#### (3) 技能目標

書きたいことを決め、さらに書きたいことが伝わるように2段階に分けて取材することができる。
--

#### (4) 年間技能目標における位置づけ (◎は重点的に指導)

月	単元	教材	ジャンル	課題	取材	論理	構成	記述	推敲	交流
5	ともだちにつたえよう じぶんだけのニュース	今週のニュース	報告文	○						◎
6	めざせ!かんさつ名人	かんさつ名人になろう	観察記録文		◎					
7	世界に一つだけのお話を作ろう	お話のさくしゃになろう	物語文				◎			
11	もっと知りたい、 ともだちのしょうかい文をかこう	友だちのこと、知りたいな	紹介文	○	◎					○
12	せつめい文名人になろう	おもちゃの作り方	説明文				◎	○		
2	2年2組思い出文集を作ろう	楽しかったよ、二年生	報告文		◎		○			

## 4 単元構成図

単元名・教材名

もっと知りたい、友だちのしょうかい文を書こう  
「友だちのこと、知りたいな」

(「光村図書 2年」) 総時数9時間

### 学習の活動目標

### 学習目標

第1次 (1時)

※《》は評価規準

帰りの会の「よいところ見つけ」の映像を振り返りながら友だちのことをもっと知りたいという思いをもち、学習課題を設定して学習計画を立てる。

友だちについてもっと知りたいという思いをもつことができる。  
《友だちのよいところに関心をもち意欲的に探そうとしている。》

第2次 (3時)

- ① 紹介する友だちのよいところを思い出す。
- ② 紹介する友だちに尋ねて、その中から伝えたいことを決める。
- ③ 伝えたいことを詳しくするためにさら紹介する友だちにインタビューをする。〈本時〉

- ① 友だちのことについて、思い出してよいところを見付けることができる。
- ② 取材したことの中から伝えたいことを決めることができる。
- ③ 伝えたいことについて詳しい事柄を集めることができる。  
《見たり、聞いたりしたことや自分が経験したことから取材メモを集めたり、詳しくしたりしている。》

第3次 (4時)

取材メモを整理して構成を考え、紹介文を書く。

紹介文のモデル文を見て、構成を理解し、紹介文を書くことができる。  
《取材メモをもとにしながら、構成に注意して紹介文を書くことができている。》

第4次 (1時)

友だちの紹介文を読んで、交流し合い、学習のまとめとする。

自分が書いた友だちの紹介文を学級、学年で交流することができる。  
《友だちの紹介文を読んで、感想をもっている。》

## 5 学習活動と指導の実際

第一次・・

### ①学習内容

友達のよいところについて話し合い、学習計画を立てる。(1時間)

### ②指導内容

まず、毎日帰りの会で行っている友達のよいところを見つけて発表する「きらきらタイム」の映像を見せた。それは、友達のよいところを発表する児童やそれを笑顔で聞いている児童の表情などを客観的に見せたいという意図があった。毎日友達のよいところを見付けたり見付けられたりすることで、嬉しい気持ちになり、日常的に行ってきた活動のよさを改めて児童に感じさせたかった。映像を見た後、児童の表情は、にこやかであった。また、「発表された〇〇さんうれしそう」、「ぼくも見付けたこと言いたい。」とつぶやく児童も見られた。

次に、学級の中で見付けた友達のよいところや友達へのありがとうの気持ちを、カードに書いてボックスに入れ、帰りの会で紹介する取り組みや友達のよいところを書いた「きらきらカード」を振り返りながら友達のよさについて話し合う活動を行った。児童は、きらきらカードを心待ちにし、友達のよいところ探しに関心を持つとともに、きらきらカードをもらうことに喜びを感じるようになったことを振り返った。

さらに、知らせたいという意欲を高めるために、児童に「他の人が知らないような友達のよいところを紹介しよう」「あまりかかわったことのない友達や仲良くなりたい友達のよいところを見付けるともっとクラスが仲よくなれるね。」と投げかけ、「もっと知りたい、友だちのしょうかい文を書こう」という単元が生まれた。友達のよいところを紹介文に書き、学級で紹介し合う中で、以前よりも友達のことを知り、仲を深めるという目的意識・相手意識を明確にして学習計画を立てた。友達のよいところを紹介するために、友達のことをもっと詳しく知りたいということで第二次につないでいった。

#### <学習計画> 9時間

1. 学しゅう計画を立てよう。
2. 友だちのよいところを思い出そう。
3. 友だちのよいところをたずねて伝えたいことをきめよう。
4. 友だちのよいところをくわしくしよう。
5. しょうかい文の書き方を知ろう。
6. 文しょうを組み立てよう。
7. 下書きをしよう。
8. せい書をしよう。
9. しょうかい文を読み合おう。

第二次・・

①学習内容

(3時間)

紹介するために必要な事柄を集め、順序を整理して文章を組み立てる。

- (1) 友達のよいところを見付けるために、よいところの観点(言ったこと・見かけたこと・いつもしていること・してくれたことなど)に沿って思い出して、取材カードに書き込む。(1時間)
- (2) 友達のよいところについて、観点をもとに友達に尋ね合い、その中から特に伝えたいことを一つ決める。(1時間)
- (3) 一番伝えたいことについて尋ねたり聞いたりして、友達のよいところを詳しく知る。(1時間)

②指導内容

第二次第1時では、児童が友達のよいところを思い出しやすいするために、日常的に友達のよいところを書いた「きらきらカード」を振り返る活動を行った。さらに、友達のよいところが具体的にどのようなことなのか話し合う活動を行い、児童が出し合った友達のよいところの観点を整理した。それらを踏まえて教科書に掲載されている「思ったこと」「いつもしていること」「見かけたこと」「してくれたこと」の観点をもとに具体的に取材する活動を行った。

第二次第2時では、友達のよいところについて、より具体的な事例を見付けることができるように、本人へのインタビューをする活動を行った。

第二次第3時では、紹介文に書きたい題材を決め、その事柄に必要なことを詳しくするために、対話活動を行った。(本時)

第三次・・

①学習内容

(4時間)

- (1) 紹介文の書き方を考え、構成を理解する。(1時間)
- (2) 友達のよいところを紹介するために必要な事柄を選び、文章を組み立てる。(1時間)
- (3) 友達のよいところが伝わるように前時の組み立てシートをもとに下書きをする。(1時間)
- (4) 表記に気を付けて清書する。(1時間)

②指導内容

第三次第1時では、紹介文のサンプル文を提示し、「はじめ」「中」「おわり」にどのような内容が記述されているのか話し合う活動を行った。また、伝聞の表現や、友達のよいところを示す理由などの表現にも注目するようにした。

第三次第2時では、友達のよさが伝わるような文章にするために「紹介したい友達のよさ」「どうしてよさだと思うか(理由)」「自分がどう思ったか」を整理して順序よく書くことが大切であるということを考える活動を行った。

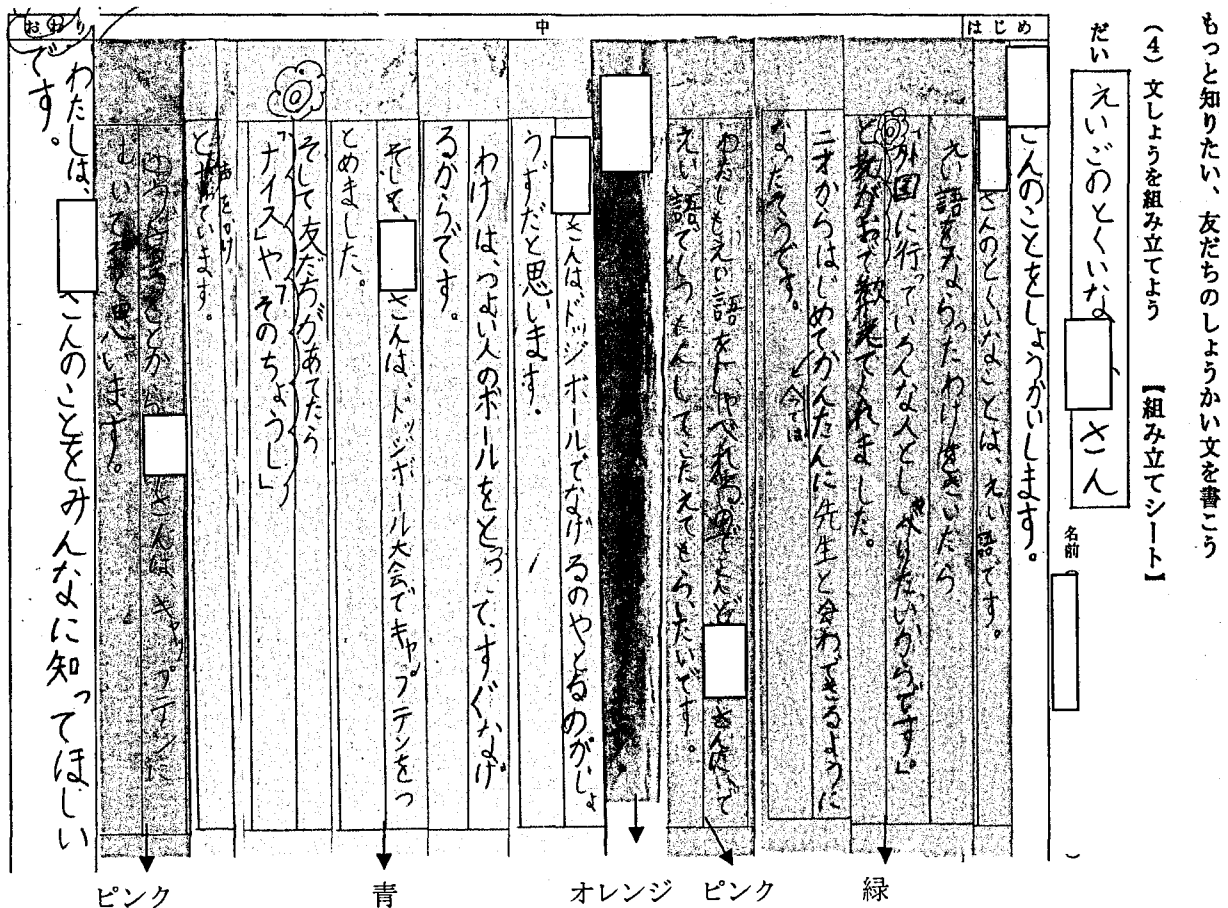
そこで、伝えたい友達のよいところを選び、具体的な事例をもとに読み手が納得するような文章にするために短冊状の色カードを活用し、次のように工夫した。

- |  |
|--|
| 「緑」・・・対話した中から分かった友達のいいところ              |
| 「青」・・・思い出したりインタビューしたりした中から分かった友達のいいところ |
| 「オレンジ」・・・つなぎの文                         |
| 「ピンク」・・・自分の思い                          |

色カードを使ったことで、それぞれ色によって、書く必要のある事柄が何なのかを理解できた。構成する場面では、組み立てシートのサンプルを参考にしながら順序を確認した。その後、色カードに取材したことを一文ずつ書くようにしたところ、色のまとまりごとに「はじめ」「一番伝えたい友達のよさ」「つながりの文」「2つ目に伝えたい友達のよさ」「自分の思い」というようにまとまりに分けて配置することを意識することができた。「緑」と「青」のカードは、それぞれどちらを先に伝えたいかカードを移動させることを通して最も伝えたいことを決めることができた。児童は、今まで文章を書くときは、思いついたまま文章を書くことが多かったが、色カードに一文を書いて順序に沿って構成を考えさせたことによって、何が一番伝えたい事柄なのか明確にすることができた。また、まとまりごとに整理できたことで、読み手にも読みやすい文章となった。

第三次第3時では、前時で活用した組み立てシートをもとに下書きをする活動をした。組み立てシートに貼った色カードの色が変わったら、段落をかえるように指導した。下書きが終わったらペアで読み合い、字の誤りがないか、句読点やかぎが正しく使えているかなどを確認するようにした。

第三次第4時では、清書を行った。読み手が読みやすいように正しく丁寧に書くように指導した。



第四次・・

①学習内容

完成した紹介文を読み合い、交流し合って友達のよいところを見付け合い、学習のまとめとする。

②指導内容

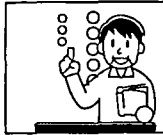



自分が書いた紹介文を4人グループで回して読み合い、一人ずつ感想を伝え合う活動を行った。感想を伝え合ったあとは、振り返りカードを活用して自己評価を行う活動を設定した。

## 6. 授業の実際

### 授業1 取材の指導について

#### 第二次 第1時

##### (1) 授業の計画

教師の手だて	【本時でつきたい力】	児童の意識の流れ
	<p>友だちのよさを見付ける観点を整理し取材メモに書くことができる。</p>	<p>「きらきらカード」を見ると、係活動や当番でがんばっていることが書いているよ。他にもやさしいなと思ったことを書きたいな。</p>
<p>日常生活の中で取り組んでいる友だちのよいところを書いた「きらきらカード」を振り返る。</p>	<p>【本時の言語活動】 友だちのよいところを思い出して取材カードに書く。</p>	
<p>友だちのよいところを見付けやすいように、その人と親しい友だちに尋ねるようにする。</p>	<p>【本時の活動計画】 ① 友だちのよいところを見付けるための観点を話し合い、友だちのよいところを見付けて取材カードに書くことを確認する。</p>	<p>紹介する友だちの仲のよい友だちに聞いたら、友だちのよいところが前よりもたくさんわかった。</p>
<p>教師が知っている児童のよさをヒントとして助言する。</p>	<p>【めあて】 友だちのよいところを思い出してカードに書こう。</p> <p>② 友だちのよいところについて話し合う。</p> <p>③ 友だちのよいところを見付ける観点を整理する。</p> <p>④ 友だちのよいところを思い出してカードに書く。</p> <p>⑤ 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。</p>	
		<p>もっと、友だちのよいところを見付けたいな。</p>
		

##### (2) 授業の実際

まず、題材を選定するにあたっては、学級の友達に友達のよいところを紹介するという目的を確認した。友達のよいところについて、児童が題材を選びやすくするために、児童が日常的に取り組んでいる「友だちのよいところ見付け」の際に書いた「きらきらカード」をふり返りながら友達のよいところについて話し合い、整理させた。観点は、以下の通りである。

<日常生活でよいところを見付ける観点>

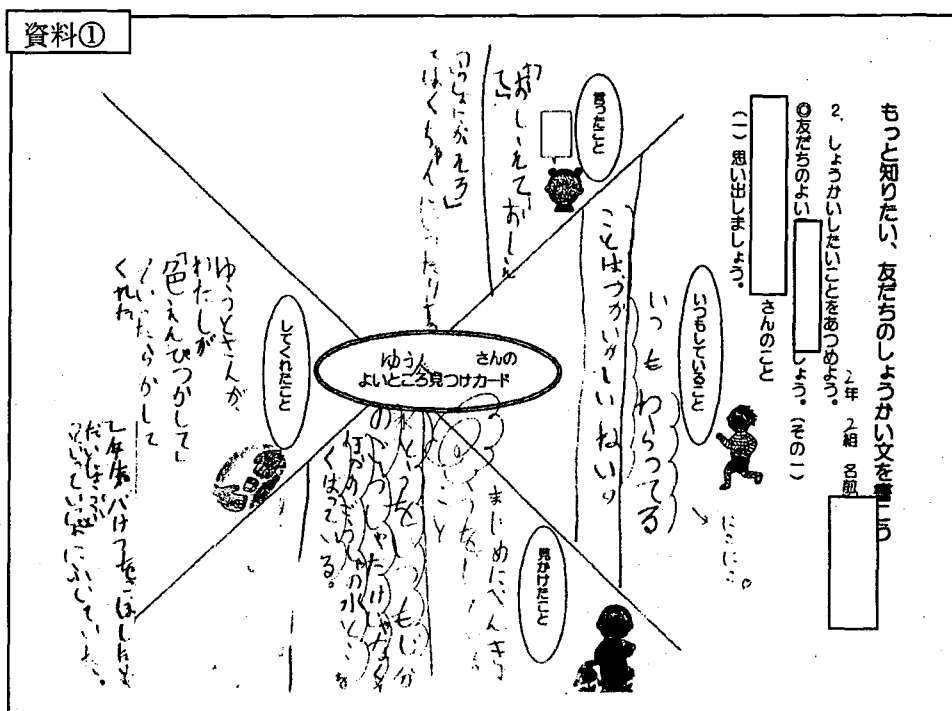
- ・性格 (やさしいところ)・得意なところ (勉強・スポーツ・習い事、など)
- ・好きなこと (もの)・がんばっているところ (勉強、スポーツ、係活動、習い事など。)
- ・いいなと思うところ

※ 友達のよいところを見付けるときは、登下校中、学習中、休み時間、掃除時間、係活動、当番などの場面から見付ける。

<友達のよいところについての話し合いの様子>





- T1 : 友だちのよいところとは、どんなところでしょう。  
C1 : がんばっているところです。  
T2 : がんばっているところとは、たとえばどんな場面でしょう。  
C2 : 係の仕事を進んでしているところです。  
T3 : そうですね。他にはどんなところがありますか。  
C3 : ボールを投げるのが速いです。  
T4 : それは、とくいなことですね。とくいなこともよさの一つですね。

次に、児童が出し合った友達のよいところを見付けるための観点をもとに、友達のよいところを見付ける学習に入った。そして、教科書に提示されている友達のよさを見付ける観点 (言ったこと・見かけたこと・いつもしていること・してくれたこと) を組み合わせ、自分たちの生活の中から具体性をもたせ、紹介するための題材を膨らませた。また、友達のよいところを思い出しやすいように、日頃から友達のよいところについて書き溜めておいた「きらきらカード」も見ながら取材に役立てた。そして、友達のよいところについて思い出すことにつまずきを見せた児童には、思い出したり探したりしやすいように、紹介する人と親しい友達にインタビューを取り入れ、具体的なよさを聞くようにした。資料①は、取材カードである。具体的な事柄を集めたい児童やなかなか友達のよいところを思い出せなかった児童にとっては、他の友達にインタビューしたことによって、自分だけでは分からなかった事柄が分かり、書くために必要な友達のよいところをさらに詳しく集めることができた。



## 第二次第2時

### (1) 授業の計画

教師の手だて	【本時でつきたい力】	児童の意識の流れ
	<p>友だちのよいところについて、取材した中から伝えたいことを決めることができる。</p>	<p>友だちについてくわしく知りたいときは、たずねてみるといいね。</p>
<p>伝えたいことを決めるためにペアで尋ね合う対話を設定する。</p>	<p>【本時の言語活動】 友だちのよいところについて、紹介したいこと（伝えたい事）を決めるために友だちに尋ね合う活動を行う。</p>	
<p>教師対児童という手本を見せて対話の見通しをもつことができるようにする。</p>	<p>【本時の活動計画】 ① 友だちに尋ね合うことを通して、その中からさらに詳しく尋ねてみたいことを見付けるというめあての確認をする。</p>	<p>尋ねてみると、友だちのことがだんだんわかってきたよ。</p>
	<p>【めあて】 友だちにたずねてつたえたいことをきめよう。</p>	
	<p>② 友だちのよいところについて、観点をもとに友だちに尋ね合う。</p>	<p>つぎは、つたえたいことについてもっとくわしくきこう。</p>
	<p>③ 尋ねたことをメモする。</p>	
	<p>④ メモしたことをペアで確認する。</p>	
	<p>⑤ 尋ねたことの中から伝えたいことを一つ決める。</p>	
	<p>⑥ 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。</p>	

### (2) 授業の実際

まず、前時のふりかえりをした。前時は、紹介する友達のよさを思い出す活動を行った。しかし、思い出した友達のよさだけでは、紹介文を書くための具体性が弱かった。そこで、本時では、友達のよさを知るために、紹介文に取り上げる本人へのインタビューをする活動を行った。尋ねる観点の一覧は、次の通りである。



<尋ねる観点>

- ・得意なこと
- ・好きなこと
- ・がんばっていること
- ・自慢できること
- ・大切にしていること

ペアでインタビューをする前に、教師と児童のインタビューのモデルを見せて、児童に対話の見通しをもたせるようにした。また、相手が答えたことについては、短くメモすることも指導した。

次に、児童はこの観点に沿って、ペアでインタビューを行った。インタビュー中は、児童が何を尋ねたらよいかという観点が把握できていたので、スムーズにやりとりができた。取材カードにメモをするにあたって、自分が分かるように短い言葉でメモすることができていた。話したり書いたりすることを苦手とする児童については、教師が児童について、対話の手助けをした。また、ペアになった相手児童が、取材カードを確認して、書いていなかったところを教える場面が見られた。

インタビュー後、自分の取材カードを見て、その中から特に紹介したいこと（伝えたいこと）を一つ決めた。





インタビュー後の児童の感想は、以下の通りである。

- ・ Aさんから得意なことを英語と聞いた時、わたしもすこししゃべれるので、気になりました。次の時間に詳しく聞きたいです。
- ・ Bさんのから聞いた中で、一番これが聞きたいことは、サッカーをがんばっていることです。どうしてかという将来のゆめがサッカー選手になることだからです。
- ・ 次の時間に、Cさんの好きな水泳や、水泳が好きな理由を詳しく聞きたいです。
- ・ ぼくは、Dさんの好きなことがキャッチボールと聞いて、はじめて知りました。
- ・ とくいなことやがんばっていることを聞いてその人のいいところが分かったのでよかったです。
- ・ わたしは、次の時間、Eさんに「どうしてやきゅうをはじめたのか」聞きたいです。

観点をもとに幅広くインタビューしたことで、児童は、自分の知らない友だちの一面を発見することができた。そして「みんなが知らないような友だちのよいところを詳しく聞きたい、紹介したい。」という思いを高めることができた。

本時のまとめでは、今日決めた伝えたいことをどうしたらよいか話し合った。すると、一つに決めた伝えたいことを詳しく聞いて紹介文を書くという意見が出た。こうして次時、伝えたいことをさらに詳しくインタビューするという学習へつないでいった。

第二次 第3時  
 (1) 授業の計画

教師の手だて	【本時でつきたい力】	児童の意識の流れ
	<p>伝えたいことの内容が分かるような詳しい事柄を集めることができる。</p>	<p>みんなが知らないような友だちのよいところを知りたい。どんなしつもんをしたら友だちのことがくわしくわかるかな。</p>
<p>友だちのよいところをさらに詳しく知るために、インタビューする活動を設定する。</p>	<p>【本時の言語活動】                  友だちのよいところ（伝えたいことの内容）をさらに詳しく知るために、友達に尋ねたり、尋ねて分かったことをメモしたりする活動を行う。</p>	
<p>詳しく紹介するための具体的な事柄を集めるために尋ねる観点の一覧を提示して、インタビューができるようにする。</p>	<p>【本時の活動計画】                  ① 一番伝えたいことについて、内容を掘り下げて友達に尋ねたり聞いたりして、伝えたいことの内容が詳しく分かるように事柄を集めることを確認する。</p>	<p>友だちこたえたことに、2、3回続けて質問したら友だちのことがくわしくわかるね。</p>
<p>インタビューにつまずいた児童については、教師が用意したヒントカードを渡したり、児童の間に入って対話の手助けをしたりする。</p>	<p>【めあて】                  友だちにたずねたり聞いたりして、友だちのよいところをくわしくカードに書こう。</p>	
	<p>② 詳しく尋ねる観点を確認する。</p>	<p>質問することのできたことにくわしくなった。今まで知らなかった友だちのよいところをはっけんすることができた。</p>
	<p>③ 友だちのよいところを多く見付けるために、紹介する友達に尋ねて、カードに書き込む。</p>	
	<p>④ カードに書いた事柄を友達と見せ合い、確かめる。</p>	
	<p>⑤ 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。</p>	

(2) 授業の実際

まず、友だちのよいところについて、より具体的な事柄を集めるために、インタビューをする活動を

行うことを確認した。そして、どのような質問をすれば、伝えたい事柄が詳しくなるか話し合う活動を行った。その際、教科書のA「とくいなことは、なんですか。」B「すいえいです。」というやりとりを例に挙げた。このやりとりでは、Bが水泳が得意だということが分かったが、さらに水泳のことが得意ということがより詳しく分かるためにどんな質問をしたらよいか児童に発問した。児童からは、「いつからですか。」「どの泳ぎが一番得意ですか。」などを質問したらよいという意見が出た。対話の見通しをもち、インタビューの活性化を図ることができるように、児童が考えた質問、教師が想定した詳しくなるための質問を短冊に書いて提示した。教師が想定した質問を提示することで、その子らしい「思い」や「気持ち」を引き出すことを大切にした。

<p>&lt;児童が考えた質問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつからですか。</li> <li>・どうやって～ですか。</li> <li>・どうしてですか。(理由)</li> </ul>	<p>&lt;教師が想定した詳しくなるための質問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちや家族から言われたこと。</li> <li>・その時の気持ち</li> <li>・うんとがんばったこと(そのときの気持ち)</li> </ul>
---	--

次にペアで前半、後半に分けてインタビューをする活動を行った。

<p>&lt;ペアでのインタビューの様子&gt;※①児は②児の好きな水泳のことについて詳しく尋ねる。</p> <p>C1 ①児 「どんな泳ぎができますか。」</p> <p>C2 ②児 「背泳ぎやいきつきクロールです。」</p> <p>C3 ①児 「一番得意な泳ぎは何ですか。」</p> <p>C4 ②児 「いきつきクロールです。」</p> <p>C5 ①児 「何メートル泳げますか。」</p> <p>C6 ②児 「38メートルです。」</p> <p>C7 ①児 「どうして水泳が好きなのですか。」</p> <p>C8 ②児 「友達がたくさんいるし、面白からです。」</p> <p>※①児は、自分が考えた質問を聞き終え、何を尋ねてよいか困っていたので、教師が事前に用意したヒントカードを渡した。</p> <p>C9 ①児 「どうしたら上手に泳げるんですか。」</p> <p>C10 ②児 「いきつぎの時、いっぱい息を吸うことです。」</p> <p>C11 ①児 「目標は、何メートル泳ぐことですか。」</p> <p>C12 ②児 「300メートル泳ぐことです。」</p> <p>※ 尋ねる観点を見ながら質問している。</p> <p>C13 ①児 「水泳を習ってどんな気持ちですか。」</p> <p>C14 ②児 「がんばろうという気持ちです。」</p>
---

児童は、自分で考えた質問項目や、教師が想定した詳しくなるための質問をしたことにより、友達のよいところについて詳しく取材することができた。インタビューする前には分からなかった友達のよさが、インタビューをしたことによって、「自分が発見した」友達のよさを幅広く具体的に集めることができた。そのことが書く意欲を喚起することにもつながった。自分の知らなかった友達の一面を知ることができ、発見の楽しさを感じることができた。インタビューにつまずいていた児童は、提示した質問

を参考にし、質問を付け加えてさらに詳しく聞くことができた。教師も座席指導案をもとに個別のヒントカード（対話につまずきを見せた時、教師が事前に考えた個に応じた質問を付箋に書いたもの）を用意していた。適時児童にヒントカードを渡したことによって、新たな友達のよさを聞き出せることができた。

## 7 実践のまとめ

### (1) 成果

#### 価値目標

友達と対話や交流などをしながら、自分の思いを伝えたり、他者の思いを知ったりすることで、友達に目を向けることができる。

普段教室で一緒に過ごしていても、友達のことをよく知っているとは限らない。友達のよさを見つけたとしても表面的なよさということが多かった。対話活動を行い改めて自分自身のことを相手に伝えたり知ったりしたことで、今まで知らなかったその人のよさをより具体的に知ることができた。それが新しい発見にもつながり、友達への興味を抱くことにつながった。

#### 態度目標

進んで書こうとする態度を身に付けることができる。

1学期から継続的に取り組んできた「友達のよいところ見つけ」を振り返り、活動のよさを実感させた。さらに「もっとみんながなかよくなるためにみんなが知らないような友達のよさを伝えよう」という目的を明確にさせたことで、「書いて紹介したい」という思いへとつなげることができた。

#### 技能目標

書きたいことを決め、さらに書きたいことが伝わるように2段階に分けて取材することができる。

取材活動を段階に分けて丁寧に行ったため、書くための材料を次第に膨らませることができた。その中で、書きたいと思う事柄が見つかり、一つに絞ることができた。書きたい事柄について対話活動を取り入れたため、対話前よりも書こうとする事柄がより具体的に詳しくなった。

### (2) 課題

- ・対話の際、スパイラルに質問がつながっていない児童が見られた。どんな質問をしたら受け答えがながくなっていくか児童と練り合う時間を十分にとる必要があった。そうすることで、質問の質もあがるのではないかと考える。

### (3) 単元を終えて

「友達のこと、知りたいな」という単元は、特別活動との結び付きが強い。そこで、1学期から継続的に「友達のよいところ見つけ」を学級で取り組んできた。しかし日が経つうちに、決まった児童が発表したり、発表されたりということがあった。そこで、この単元に入った時、改めて学級目標に立ち返ることにした。学級目標の「えがおかがやく」という言葉に注目させ、「このクラスみんながえがおになるために、日頃関わったことのない友達のよいところを見付けるとみんながえがおになるね。」と児童に言葉をかけた。児童は、友達のよさを見付けるために、ステップを踏んで取材に取り組んだ。取材を続ける中で、今まで知らなかった友達のよさが発見でき、喜びにつながった。たとえば、A児が取材したB児のがんばっていることとして「サッカーの練習」ということが分かった。「どうしてがんばっているの」というA児の質問にB児は、「サッカー選手になりテレビに出て、おじいちゃんをよろこばせたい、トロフィーを見せてあげたい」と答えた。このB児の思いにふれた私をはじめ児童は、「こんな一面もあるんだ。」と心がゆさぶられた。

このように「自分が知り得た友達のよさを紹介文に書いてみんなに知ってもらいたい」という児童の思いが書く意欲を持続させたと思う。紹介文を読んで交流したことで、今までよりも友達のことを多く知ることができ、仲を深めることができたと思う。仲を深めるということは、学級目標の「えがおかがやく」ということに一歩近づけたと思う。